

| no. シナリオ | 手順 |
|--|---|
| 1 このフィールドがどこで使われているのか調べたい | <p>1.ダッシュボードを開きます。</p> <p>2.画面右上「Global Search」にカーソルを入れます。</p> <p>3.調べたいフィールド名を下記のように入力して Enterを押すと検索を開始します。</p> <p>4.別ウインドウ「Global Search Results」が開き、検索結果が表示されます。 詳細を確認したいフィールドが表示された行の左端にある [>]ボタンをクリックすると、ダッシュボードのウインドウ上で該当の画面「Field general」に遷移します。</p> <p>5.フィールドの情報が表示された行の右端 (「Ref」列)の数字はこのフィールドを参照しているアイテムの数です。</p> <p>6.「Ref」列の数字をクリックすると別ウインドウで「Reerences テ-ブル名 ::フィールド名」の画面に遷移します。 画面内にこのフィールドを参照しているファイル毎のアイテムが一覧表示されます。</p> |
| 2 このフィールド消したいけど大丈夫 ? | <p>1.ダッシュボードを開きます。</p> <p>2.画面右上「Global Search」にカーソルを入れます。</p> <p>3.調べたいフィールド名を下記のように入力して Enterを押すと検索を開始します。</p> <p>4.別ウインドウ「Global Search Results」が開き、検索結果が表示されます。 詳細を確認したいフィールドが表示された行の左端にある [>]ボタンをクリックすると、ダッシュボードのウインドウ上で該当の画面「Field general」に遷移します。</p> <p>5.フィールドの情報が表示された行の右端 (「Ref」列)の数字はこのフィールドを参照しているアイテムの数です。</p> <p>6.「Ref」列の数字が「0」であればこのフィールドを参照しているアイテムが無い可能性が高いですが、フィールド名がハードコードで参照されたりしていないか念の為確認をおすすめします。 「Ref」列の数字をクリックすると別ウインドウで「Reerences テ-ブル名 ::フィールド名」の画面に遷移し、画面内にこのフィールドを参照しているファイル毎のアイテムが一覧表示されます。 ※ハードコードされている箇所の確認方法 → Inspector Pro9</p> |
| 3 このフィールドの名前を変更したいけど、名前をハードコードしている部分はどこか ? | <p>1.ダッシュボードを開きます。</p> <p>2.画面右上「Global Search」にカーソルを入れます。</p> <p>3.調べたいフィールド名を下記のように入力して Enterを押すと検索を開始します。 ↓例:「氏名」というフィールドを調べる場合 !"氏名!" (フィールド名の前後に「バックスラッシュ + ダブルクォーテーション + アスタリスク」を追記する)</p> <p>4.別ウインドウ「Global Search Results」が開き、検索結果が表示されます。 詳細を確認したい行の左端にある [>]ボタンをクリックすると、ダッシュボードのウインドウ上で該当の画面に遷移します。</p> <p>-----</p> <p>※検索結果が多すぎて確認が大変な場合は下記も参考にしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> •ExecuteSQLにフィールド名や TO名がハードコードされている場合 !!!氏名!!! (フィールド名の前後に「バックスラッシュ 3本 + ダブルクォーテーション」を追記する) →SQL文内で「!氏名!」のような記載を含むスクリプトやレイアウト計算などが抽出されます。 •フィールドを名前で設定 ["顧客::氏名"; 入力フォーム ::氏名]のような記載を見つける フィールド名の場合 *::氏名! (アスタリスク + コロン2個 + フィールド名 + バックスラッシュ + ダブルクォーテーション) TO名の場合 !顧客:: (バックスラッシュ + ダブルクォーテーション + フィールド名 + コロン2個) →「顧客::氏名」のような記載を含む箇所が抽出されます。 •FileMaker Data APIのクエリや結果を取得する JSONの中でレイアウト名、フィールド名等をハードコードしている場所を見つける !"氏名!" (フィールド名の前後に「バックスラッシュ 1本 + ダブルクォーテーション」を追記する) →「JSONGetElement (JSON ; "氏名")」のような記述を含む箇所が抽出されます。 |
| 4 このフィールド、レイアウト、スクリプト、カスタム関数、はいっ追加されたのか ?できれば誰が追加したのかも | <p>前提: 初めてXMLを取り込んだ時点で存在するものについては履歴を追跡できず、2回目のXML取り込み以降に追加、編集、削除されたものの履歴が確認できます。</p> <p>1.ダッシュボードを開きます。</p> <p>2.画面右上「Global Search」にカーソルを入れます。</p> <p>3.調べたいアイテムの名前を入力して Enterを押すと検索を開始します。</p> <p>4.別ウインドウ「Global Search Results」が開き、検索結果が表示されます。</p> <p>5.下記の大見出しをたよりに該当のアイテムを探します。 初回XML取り込みより後に追加されたフィールドであればフィールド名の右側に時計マークが表示されるので時計マークをクリックします。 フィールド : FIELD レイアウト : LAYOUT スクリプト : SCRIPT カスタム関数 : CUSTOM_FUNCTION</p> <p>6.別ウインドウ「History Detail Report」が開き、履歴が表示されます。最下段に誰がいつ追加したかが記載されています。 例) The Field: 顧客::姓 was added by taro.yamada in analysis # 5 at 2026-02-18T12:15:01 →フィールド「顧客::姓」は2026/2/18 12:15:01 にヤマダ タロウが追加しました。</p> |

| no. シナリオ | 手順 |
|--|---|
| 5 この計算式はいつからこの状態だったのか、変更される前はどのようなものだったのか？ | <p>前提：初めてXMLを取り込んだ時点で存在するものについては履歴を追跡できず、2回目のXML取り込み以降に追加、編集、削除されたものの履歴が確認できます。</p> <p>■計算フィールドの計算式</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.ダッシュボードを開きます。 2.画面右上「Global Search」にカーソルを入れます。 3.調べたい計算フィールド名を入力して Enterを押すと検索を開始します。 4.別ウインドウ「Global Search Results」が開き、検索結果が表示されます。 5.大見出し「FIELD」をたよりに該当のアイテムを探します。初回 XML取り込みより後に追加されたフィールドであればフィールド名の右側に時計マークが表示されるので時計マークをクリックします。 6.別ウインドウ「History Detail Report」が開き、各行に「変更箇所 前回の値 現在の値」が表示されます。変更箇所が「Field Calculation」(計算フィールド)の行を探し、値の付近にカーソルを合わせて固定しておくでポップアップで内容が表示されますので、変更前後の値が確認できます。 ※「History Detail Report」ウインドウのステータスツールバーのレイアウト切り替えメニューから「UI → DESKTOP → REPORT → R History List」に切り替えて左端の数字が入った白い枠をクリックするとポップアップでより見やすい比較表が表示されます。 <p>■スクリプト内の計算式</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.ダッシュボードを開きます。 2.画面右上「Global Search」にカーソルを入れます。 3.調べたいスクリプト名を入力して Enterを押すと検索を開始します。 4.別ウインドウ「Global Search Results」が開き、検索結果が表示されます。 5.大見出し「SCRIPT」をたよりに該当のアイテムを探し、該当する行の左端にある「>」ボタンをクリックすると元のウインドウで該当の Script画面に遷移します。 6.「Steps」列の数字付近をクリックするとスクリプトステップが表示されます。 7.履歴を確認したい行をクリックし、その行の時計マークをクリックすると、別ウインドウ「History Detail Report」が開きます。各行に「変更箇所 前回の値 現在の値」が表示されますので変更箇所に「Step Text」や「Value Calculation」と記載された行を探し、値の付近にカーソルを合わせて固定しておくでポップアップで内容が表示されますので、変更前後の値が確認できます。 |
| 6 この変数名を変更したいので、参照元を洗い出したい | <ol style="list-style-type: none"> 1.ダッシュボードを開きます。 2.画面右上「Global Search」にカーソルを入れます。 3.調べたい変数名を下記のように入力して Enterを押すと検索を開始します。 ↓例:ローカル変数「\$開始時刻」を調べる場合 \$開始時刻 ※グローバル変数「\$\$開始時刻」も同時にヒットします。 「=\$開始時刻*」と入力することで「\$\$開始時刻」はヒットしなくなりますが、「\$開始時刻」の前に計算式が入力されたような記述もヒットしなくなります。 4.別ウインドウ「Global Search Results」が開き、検索結果が表示されます。 詳細を確認したい行の左端にある「>」ボタンをクリックすると、ダッシュボードのウインドウ上で該当の画面に遷移します。 テーブル：TABLE 例) データベース管理ダイアログのテーブルタブのテーブル名 テーブルオカレンス：TABLE_OCCURRENCE 例) データベース管理ダイアログのリレーションタブのテーブルオカレンス名、ソーステーブル名 テーブルオカレンスノート：TABLE_OCCURRENCE_NOTE 例) データベース管理ダイアログのリレーションタブのテキストノートの中の文字列 フィールド：FIELD 例) データベース管理ダイアログのフィールドタブのフィールド名、フィールドの属するテーブル名、フィールドオプションにおける「入力値の自動化」や「入力値の制限」の計算式、計算タイプのフィールドの計算式 条件付き書式：CONDITIONAL_FORMATTING 例) レイアウトオブジェクトの条件付き書式の計算式 レイアウト：LAYOUT 例) レイアウト名 レイアウトパート：LAYOUT_PART 例) レイアウトパートの属するレイアウト名 レイアウトオブジェクト：LAYOUT_OBJECT 例) テキスト、レイアウト計算、マージ変数、マージフィールド、オブジェクト名、プレースホルダテキスト、ボタンの表示、ボタンやボタンバーのスクリプト名、条件付き書式や「次の場合にオブジェクトを隠す」の計算式 スクリプト：SCRIPT 例) スクリプト名 スクリプトステップ：SCRIPT_STEP 例) 「変数を設定」の変数名、スクリプトステップ内の計算式、コメント行の文字列 カスタム関数：CUSTOM_FUNCTION 例) 計算式内 |

| no. シナリオ | 手順 |
|--|--|
| 7 このソーステーブルを参照するテーブルオカレンスとリレーション内容を洗い出したい | <p>1.ダッシュボードを開きます。</p> <p>2.画面右上「Global Search」にカーソルを入れます。</p> <p>3.調べたいソーステーブル名を下記のように入力して Enterを押すと検索を開始します。 ↓例:「M顧客」を調べる場合 ==M顧客</p> <p>4.別ウインドウ「Global Search Results」が開き、検索結果が表示されます。</p> <p>5.大見出し「TABLE_OCCURRENCE」の一覧のうち、小見出し「Table」(info) が調べたいソーステーブル名に一致している行の「Table Occurrence」(item) が該当のテーブルオカレンスです。</p> <p>6.確認したいテーブルオカレンス名の該当する行の左端にある「>」ボタンをクリックすると元のウインドウで該当のTableOccurrence画面に遷移します。</p> <p>7.画面右端の「Ref」列の数字付近をクリックすると別ウインドウで「Reference {テーブルオカレンス名}」の画面が開きます。小見出し「Relationship」をたよりに該当のテーブルオカレンスを探し、該当する行の左端にある「>」ボタンをクリックすると元のウインドウで該当の Relationship画面に遷移します。</p> <p>8.「JP」列の数字付近をクリックするとリレーションシップの条件がポップアップ表示されます。</p> <p>※注意点: このポップアップおよび Relationship画面全体の「Left」や「L」、「Right」や「R」の文字を含む見出しは、実際のリレーションシップ編集画面やリレーションシップグラフ内のテーブルオカレンス配置の「右側」や「左側」には対応しておらず、リレーションを作成する際に最初に挿込んだフィールドが Leftになります。</p> |
| 8 このグローバル変数が評価されるタイミング(スクリプトステップの実行、計算式の評価)を洗い出したい | <p>1.ダッシュボードを開きます。</p> <p>2.画面右上「Global Search」にカーソルを入れます。</p> <p>3.調べたい変数名を下記のように入力して Enterを押すと検索を開始します。 ↓例:ローカル変数「\$開始時刻」を調べる場合 \$開始時刻 ※グローバル変数「\$\$開始時刻」も同時にヒットします。 「==\$開始時刻*」と入力することで「\$\$開始時刻」はヒットしなくなりますが、「\$開始時刻」の前に計算式や文字列が入力されていた記述もヒットしなくなります。</p> <p>4.別ウインドウ「Global Search Results」が開き、検索結果が表示されます。 下記の大見出しをたよりに該当のアイテムを探します。 詳細を確認したい行の左端にある [>]ボタンをクリックすると、ダッシュボードのウインドウ上で該当の画面に遷移します。 フィールド: FIELD 例) フィールドオプションにおける「入力値の自動化」や「入力値の制限」の計算式、計算タイプのフィールドの計算式 条件付き書式: CONDITIONAL_FORMATTING 例) レイアウトオブジェクトの条件付き書式の計算式 レイアウトオブジェクト: LAYOUT_OBJECT 例) レイアウト計算、マージ変数、マージフィールド、ブレースホルダテキスト、条件付き書式、「次の場合にオブジェクトを隠す」の計算式 スクリプトステップ: SCRIPT_STEP 例) 「変数を設定」、ほか各スクリプトステップ内の計算式 カスタム関数: CUSTOM_FUNCTION 例) 計算式内</p> |
| 9 いつの間にか見覚えのないスクリプトがある。いつ誰が作ったか知りたい | <p>前提: 初めてXMLを取り込んだ時点で存在するものについては履歴を追跡できず、2回目のXML取り込み以降に追加、編集、削除されたものの履歴が確認できます。</p> <p>1.ダッシュボードを開きます。</p> <p>2.画面右上「Global Search」にカーソルを入れます。</p> <p>3.調べたいスクリプト名を入力して Enterを押すと検索を開始します。</p> <p>4.別ウインドウ「Global Search Results」が開き、検索結果が表示されます。</p> <p>5.大見出し「SCRIPT」をたよりに該当のアイテムを探します。初回 XML取り込みより後に追加されたスクリプトであればスクリプト名の右側に時計マークが表示されるので時計マークをクリックします。</p> <p>6.別ウインドウ「History Detail Report」が開き、最下段に誰がいつ追加したかが記載されています。 例) The Script : スクリプト名 was added by taro.yamada in analysis # 5 at 2026-02-18T12:15:01</p> |

| no. シナリオ | 手順 |
|---|--|
| 10 他社で作成した機能を検証していて、先週発生していたバグが今日は発生しない。スクリプトが変わってないか確認したい。 | <p data-bbox="518 174 1449 212">前提：初めてXMLを取り込んだ時点で存在するものについては履歴を追跡できず、2回目のXML取り込み以降に追加、編集、削除されたものの履歴が確認できます。</p> <ol data-bbox="518 230 1449 645" style="list-style-type: none">1.ダッシュボードを開きます。2.画面右上「Global Search」にカーソルを入れます。3.調べたいスクリプト名を入力して Enterを押すと検索を開始します。4.別ウインドウ「Global Search Results」が開き、検索結果が表示されます。5.大見出し「SCRIPT」をたよりに該当のアイテムを探します。初回 XML取り込みより後に追加されたスクリプトであればスクリプト名の右側に時計マークが表示されるので時計マークをクリックします。6.別ウインドウ「History Detail Report」が開き、更新 (Modifications)が行われている履歴の日時 (例 Decmber 22,2025 11:44 AM taro.ymada)を確認します。7.InspectorProホーム画面 (各ソリューションの一覧を表示する画面)に戻り、ソリューションの行の「 A」列の数字をクリックし、ポップアップ内の「 All Analyses.」をクリックして分析履歴の一覧を表示し、該当の日時の分析レコードを探します。8.該当行をクリックして左端の時計マークをクリックするとその時に行われた変更履歴を確認できます。 左端の帯色が緑色のものが追加された項目 (Added)、黄色のものが更新された項目 (Modified)、赤色のものが削除された項目 (Dleted)を意味します。「更新 (Modified)」の項目は左端の数字が入った白い枠をクリックするとポップアップで変更前後の値の比較表が表示されます。 |